

狩野美雪監督について

狩野美雪監督は、現在の教育支援専攻生涯スポーツコースに当たる生涯スポーツ専攻スポーツコーチ選修を卒業しました。在学中は女子バレーボール部に所属し、全日本インカレ優勝（1997年）をはじめ、数々の功績を残しています。

本学卒業後は茂原アルカスをはじめとしたバレーボールリーグチームに所属し、競技を継続。2008年には北京オリンピック・バレーボール女子日本代表に選出されています。

監督としては、一大会前の2013ソフィア大会でも指揮しており、2期目に当たります。

村井貴行ヘッドコーチについて

村井貴行ヘッドコーチは、初等教育教員養成課程保健体育選修を卒業しました。在学中は男子バレーボール部に所属し、現在躍進を続ける同部の礎を築きました。

本学卒業後は千葉県内の小学校教員として勤務しつつ、バレーボールの普及・育成活動に携わっています。デフリンピックは、2013ソフィア大会でも同代表のヘッドコーチを務めており、狩野監督と同様、2期目に当たります。

今回お二人には、本学卒業生として、以下の質問をさせていただきました。

－狩野監督には、大学での学びがその後どのように役に立ったか、うかがいました。－

「運動・栄養・休養のバランス、外旋・内旋と言った関節の動き、ストレッチにおける姿勢の取り方とか、大学で学んだことが（競技で）普通に役立ちました。バレーボールは大学を經由してリーグに所属する選手は多くないのですが、そういった知識があったことは、『なぜこの動きをするのか？』、『何を求められているか？』などを理解することにつながり、（私の中で）プラスに感じていました。また、コーチ資格取得の講習は、それぞれ大学で学んだことの復習に近い内容で、（知識面では）苦勞することなく資格取得ができました。」

－村井コーチには、スポーツを「ささえる」立場について、答えていただきました。－

「縁があって（コーチを）させてもらっていますが、このように日本代表として世界に挑むことができることはありがたいし、やりがいと魅力を感じています。」

ご回答ありがとうございました。